

スタートアップ部門 まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団体名	港まちえんがわプロジェクト
まちづくり活動名	Meets Minatomachi
活動地域	港区 西築地学区エリア
活動の背景	<p>（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。）</p> <p>団体のメンバーは名古屋港を拠点にまちづくりをはじめ、コミュニティ運営などを行なっている。</p> <p>ここ名古屋港エリアも高齢化が進み地域の担い手となる若手が少ない。今後どの街も少子高齢化で若い人材が減っていく中で、プレイヤーになりうる関係人口を増やしていく必要があるのではないかと考える。</p> <p>また地域の中にもまちづくりに関心がある若者が多い反面、実態がわからないまちづくりにどのように関われるのかがわからず、熱量が生かされずに終わってしまうケースが多いように感じる。まちづくり、広くは社会に関わろうとする人が仲間を作り、街を身近に感じながら新しいアイデアが生まれる緩やかな学びの場を作っていきたい。</p>
目的・目標	<p>（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください。）</p> <p>■目的 街には様々な課題があり、その一つに担い手不足という問題がある。特に大学生～20代の若手は関心があれど、まちづくりとの関わりしろが薄く、学んだり、ともに考える場が少ないため、まちづくり（場づくりなど）を学ぶ場を作りたい。</p> <p>■目標 さまざまなまちづくり活動を実践する方を講師に招き、事例からまちづくりの輪郭を学ぶ機会を設ける。学びの場をきっかけに、まちづくりに関心を持つ人たちがより一歩実践的に街に関わっていくコミュニティの育成を目指していく。</p> <p>■成果 コミュニティ内で生まれてきた新しいアイデアを実際に街の中で展開していく。</p>

活動内容	<p>(上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。)</p> <p>まちづくりを知っていく上で、2名の若手(～30代)実践者から、自身の経験、その専門性から見るまちづくりがどんなものなのかを伺い、勉強会を行う。 【トーク2回、勉強会月1回程度】</p> <p>◆トーク：まちづくりってなんだろう？視点をずらしてまちづくりを考える(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民(商店主)として地域に入り、様々な企画を実施している企画者の視点 ・地域の中に入ってまちづくりを行なっていくことで見えるもの ・さまざまなまちづくりワークショップのファシリテーターの視点 ・外から(中立的な立場から)の視点を持って、まちづくりの現場に関わること <p>◆勉強会：月1回を予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各トークの振り返りや街歩きなどを行い、実際に企画を設計し実施していく。 	
活動予定期間	2021年5月～2022年3月	
助成金交付申請額	50,000円	※1回目(上限5万円) ※2回目、3回目(上限10万円)

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

<p>審査基準① 必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
<p>(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <p>・この事業では、若者たちが”まちづくり”をキーワードにしたコミュニティを形成し、実践ができる場を作っていくことで、将来的な街の担い手発掘の一助になればと考えている。港まちは少子高齢化が進み、新しい担い手が不足しており、数多くの空き家が点在している。</p> <p>・若者たちが街をめぐり、発見した課題をもとにアイデアを形にしていく。その過程で地域住民や商店との連携をはかることで住民との協働をしながらまちづくりの第一歩を目指す。</p>	
<p>審査基準② 実現性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
<p>(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <p>・活動メンバーは港まちで様々な企画を実践している経験を持つため、地域との連携や橋渡しなども実施ができ、さらには勉強会のファシリテーション役としてもサポートが可能である。</p> <p>・勉強会の会場はメンバーの運営する事務所があるため、金額を安価に設定することができる。</p> <p>・新型コロナの影響も鑑みて、開催時期・形式・規模など無理のない範囲での実施を行う。</p>	

- 審査基準③** ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
発展性 ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか

(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。)

- ・まちの方々と一緒にまちづくりを实践できる現場として、若手の入り口となるような事業にしていければと考えている。
- ・地域の学区連絡協議会や、商店街、まちづくり団体などと連携を行える発展を目指していきたい。

3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
現在のところ特になし	

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

- ・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
- ・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2021	4		
	5	申請書提出	
	6	実施準備 広報スタート	
	7	トークイベント① 勉強会①	トークイベントの実施 トークイベントの振り返り
	8	トークイベント② 勉強会②	トークイベントの実施 トークイベントの振り返り
	9	勉強会③	街歩き
	10	勉強会④	アイデア会議
	11	勉強会⑤	イベントの企画 広報
	12	勉強会⑥	イベントの実施
	2022	1	勉強会⑦
2		勉強会⑧ 活動報告	振り返り 活動報告書の作成及び提出
3		次年度に向けての打ち 合わせ	次年度に向けた活動計画の検討

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

組合出支

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費目 手引きの費目を 参照	活動項目	内訳・算出根拠	金額 (円)	
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円			50,000円	
活動 経費 の内 訳	消耗品費	勉強会 勉強会	付箋、模造紙、マーカー、用紙など 10,000円 勉強会の茶菓代 1,000円×8回	10,000円 8,000円
	賃借費	トークイベント	会場費 5,000円×2回	10,000円
	印刷費	トークイベント	イベントチラシ 8,000円	8,000円
	謝金	トークイベント	事例紹介講師 2名×7,000円	14,000円
支出合計			50,000円	

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。